

飢えるか？ 植えるか？ 食料危機の時代に 地域の食を守る

未来の食を
地域から育てる



2026
10/12
[月・祝]

このままで日本の食は大丈夫か？

世界的な食料価格の高騰や気候変動、紛争などにより、
食料をめぐる状況は大きく変化しています。

日本では農家の減少や、高齢化、耕作放棄地の増加、食料自給率の低下が深刻な課題となっています。
地域の農業を守り、次世代へ食をつないでいくために、地方自治体・市民・消費者には何ができるのか。
一緒に学び、考え、未来の一步を踏み出しましょう。

こんな方へおすすめ

- ✓ 行政関係者
- ✓ 県・市町議会議員
- ✓ 生産者・農業者
- ✓ 教育関係者
- ✓ 組合員・一般市民
- ✓ 学生・若い世代の方

講師 鈴木宣弘 氏
東京大学大学院 特任教授

専門は農業経済学・国際貿易論。食料安全保障や日本の農業政策に精通し、テレビ・新聞・雑誌などで幅広く活躍。『このままでは日本は「食料植民地」になる』（平凡社新書）など著書多数。一般財団法人食料安全保障推進財団理事長として、食料安全保障の推進に向けた調査研究、政策提言、講演・セミナーなどにも取り組んでいる。

一般財団法人食料安全保障推進財団では、
活動に賛同いただける会員を募集しています。
詳しくはこちら ▶



講演内容（予定）

① 食料危機と食料安全保障



世界の食料情勢と日本の食料安全保障の現状と課題を解説します

② 農家減少と耕作放棄地の現状



農業の担い手不足や耕作放棄地の増加がもたらす影響とは？

③ 関係人口・ふるさと住民登録の可能性



関係人口の増加が地域を支え、未来の農業をつくれます。

④ オーガニック給食が地域を支える



子どもたちの健康と地域農業の未来をつなぐ学校給食の力。

⑤ 地方自治体が果たす役割



自治体の政策や支援が地域の食と農を守る大きな力となります。

⑥ 市民・消費者にできること



買うこと・選ぶこと・声を上げることが未来をつくれます。

締め切り：2026年10月8日（木）

お申し込みはこちら



開催概要

日時 2026年10月12日(月/祝) 13:30～15:30

開催場所 徳島県JA会館 別館2F大ホール
徳島県徳島市北佐古一番町5-12

参加費 1,500 円

主催

耕作放棄地の再生を進める会
TEL:080-5586-7159（日向）
徳島県板野郡板野町川端字川敷田11-1

協賛

農民運動徳島県連合会 / 認定NPO法人徳島こども食堂ネットワーク / 徳島有機農業研究会